

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號一第 卷五第

行發日一月七年六正大

論說

生物進化論ノ誤解

理學士 川村多實二

露國ノ資本主義ト最近ノ大革命(二)

米田庄太郎

飛脚ノ變遷(二)

法學士 本庄榮治郎

現代的保險ノ成立(二)

法學士 小島昌太郎

時事問題

英國特惠稅問題

法學博士 戸田海市

會社使用人ノ慰勞賞與金ニ對スル所得稅賦課問題

法學博士 神戶正雄

雜錄

經濟雜話(一〇)

法學博士 田島錦治

所謂「Welfare Work」ニ就キテ

山本美越乃

群馬縣ノ製絲業

法學士 河田嗣郎

基礎社會ノ發達ニ就イテ

文學士 高田保馬

國民經濟講話及貧乏物語ヲ讀ム

瀧本誠一

福田氏國民經濟講話及河上氏

貧乏物語ヲ讀ム

瀧本誠一

近日著者が余ノ許ニ寄贈セラレタル表記ノ二書ハ、何レモ深奥ナル經濟學ノ原理ヲ最モ通俗的ニ講述セラレタルモノニシテ、世上此類ノ讀ミ物ニ乏シク、一般ニ缺乏ヲ感シツツアルノ折柄、此ノ二ツノ好著述ハ必ス社會ノ各方面ニ多大ノ歡迎ヲ受クルコトナルベキヲ疑ハズ、故ニ余ノ批評ノ如キハ寧ロ蛇足ニ屬スルノ謗ナキニアラザルベキモ、其ノ讀過ノ際ニ於ケル所感ヲ披瀝シテ著者及同學ノ一察ニ供セント欲スルハ必ズシモ無益ノコトニアラズト思フ

福田氏ノ國民經濟講話ハ同君ガ昨年石川縣ノ講習會ニ於テ講演セラレタル速記録ヲ土臺トシテ著述セラレタルモノデアアル、又河上氏ノ貧乏物語ハ昨年中數回ニ亘リテ大阪朝日新聞ニ載セラレタル談論ヲ纏メテ成書トセラレタルモノデアツテ、二書共ニ學界ニ向ツテ専門的研究ノ結果

ヲ公ニセラレタルモノニアラザレドモ、著者ハ何レモ此書ニ依ツテ各々其ノ平生ノ意見ヲ充分ニ吐露セラレタルモノト見テ差支ヘナシト信ス、否此ノ兩著者ハ同シク其ノ序文ニ於テ自ラ會心ノ著作ナルコトヲ吹聴シ、各々之ヲ以テ上出來ノモノト自認セラルル程ノコトナレバ、兩著者ノ學說ノ眞面目ハ全ク此書ニ於テ窺知シ得ラルルコトハ、余ノ辯ヲ待タザル所デアアル、乃チ此ノ二書ハ其ノ形ノ通俗的ナルニ拘ハラズ、否寧ロ通俗的ナルガ故ニ、社會一般ニ是非トモ精讀ヲ必要トスル價值アルモノト云ハネバナラヌ

サテ國民經濟講話ハ其ノ坤卷ノ發行ヲ待ザレハ勿論之ガ全體ヲ評スルコト能ハサルモ要スルニ其ノ主眼トスル所ハ、今日ノ世ノ中ハ流通經濟ノ時代ナルコトヲ前定シ、其ノ經濟行爲ノ特色ハ、凡テ貨幣ノ額ニ見積ラレ且ツ言現ハサレ得ル價值判斷ニ外ナラザルコトヲ説キタルモノデアツテ、著者ガ其ノ序文ニ「最新の經濟學理を解説した一書の著作を是非試みねばならぬと發

心し」云々と述ヘラレタルハ、蓋シ主トシテ此ノ點ニアルベシト推測セラル、原來此書全體ノ組織ハ舊來ノ四分科若クハ三分科ノ分類法ヲ取ラズシテ、先ツ全篇ヲ汎論ト本論トニ大別シ、本論ハ之ヲ生産論ト流通論トノ二部ニ分チタルモノニシテ、本書(乾卷)ハ四一〇頁マテ一篇二篇三篇ニ亘リテ長キ汎論ヲ述ベ、其ノ第四篇ヲ生産論(其一)トシテ、第十四章乃至第二十一章(四一―頁ヨリ七六〇頁ニ至ル)ニ至ル迄ヲ詳論シテ乾卷ノ終トナシタレバ、思フニ近日公ニセラルベキ坤卷ハ生産論ノ續編ヨリ始マリ、流通論ノ全部ヲ終リテ完了ニ至ルモノナルベシ、乃チ余ノ此ニ評シツツアル乾卷ハ生産論ノ(其一)ダケニ過ギザレバ是レニ依テ之ヲ評スルハ甚タ早計ノ至リナレドモ、余ガ是迄ニ讀過シタル所ニ依レバ本書ノ生産論ハ別ニ嶄新ノ學說ト認ムベキモノナク、其ノ用語ノ定義ト云ヒ所論ノ主旨ト云ヒ、概ネ正統派ノ舊說ヲ其儘ニ採用セラレタルモノナルガ如シ、例ヘハ生産ヲ價值ノ生産トシ、消費ヲ價值ノ毀滅ナリトスルノ説、

若クハ收穫遞減ノ法則ヲ説カレタル場合ノ如キ、之ヲ舊說ニ比シテ殊ニ大ナル差異アルヲ見出サザルノデアル、尤モ收穫遞減法ノ作用ヲ中止スル働キノ中ニ、栽培物ノ變換ヲ加ヘラレタルコトナドハ、著者自ラ「此點ハ昔シの學者は餘リ注意しなかつた」ト述ヘラレタルモ、其實ハ栽培物ノ變換ハ收穫遞減法ニハ沒交渉デアツテ、原來此ノ法則ハ同一種類ノ耕作物ニ就キ、其ノ收穫ノ量數高ニ適用シテ、之ヲ唱道シタルモノニ外ナラズ、若シ否ラズシテ、此ノ法則ヲ貨幣價値即チ金額ノ多少ニ適用シ、米ヨリハ甘蔗ノ方ガ貨幣價値積リタル收穫ガ多イ、甘蔗ヨリハ野菜ノ方ガ貨幣價格カ多イト云ヘバ、成程ソノ通デアルガ、ソレデハ人口ガ増殖スレバ、スル程、一般ニ耕作物ノ貨幣價値ハ昂騰スルニ依リ、其ノ收穫ハ常ニ遞減法ニ從ハズシテ、反對ニ一種ノ意味ニ於ケル遞加法ニ從フモノト云ハザル可ラザルノデアル、之ヲ要スルニ本書ノ生産ノ部分ハ嶄新ノ學說トシテ特ニ感服ニ値ヒスルモノナク、多クハ正統派ノ舊說ニ新調ノ衣服ヲ着セ

タルニ過サレバ、本書ノ價值ハ固ヨリ此ノ生産ノ部ニアラザルコトハ明カデアアル、但著者ハ第十七章ニ於テ、特ニ「企業ノ意義及任務」ヲ明ニシ、之ヲ以テ「生産ノ根本動力」トナシ、企業者ガ特殊ナル利潤ヲ收得シヨウト云フ念ガ、總テノ經濟的活動ノ動力トナルト云フコトヲ高唱シテ、企業ノ地位ノ重要ナルコトヲ論セラレタルハ、斯學近代ノ一般の傾向ヲ明ニ認メラレタルモノニシテ、學者ノ注目ヲ要スル所ナルモ、唯憾ラクハ此ノ點ニ於ケル著者ノ所論ハ、企業ニ伴フ特殊ノ危險ヲ説クニ詳カニシテ、其ノ經濟的活動ノ動力(生産ノ根本動力)タル特殊ノ利潤ヲ説クニ略セラレタレバ、余ノ如キ粗忽者ヲシテ、著者ハ企業ノ特殊ノ危險ヲ以テ經濟的活動ノ動力デアルト主張セラルルガ如ク速斷セシムルノ恐レナキニアラサルノデアアル、著者ノ所謂利潤危險トハ如何ナルモノカ知ラザレドモ、兎ニ角生産ノ根本動力トナリ得ベキモノハ、特殊ノ危險ニアラズシテ特殊ノ利潤ナルベケレバ、生産ノ根本動力トシテ企業ニ重キヲ置カレタル

本書ノ如キニ於テハ、特殊ノ危險ヨリハ特殊ノ利潤即チ企業ノ餘剩問題ヲ捉ヘテ今少シ詳カニ闡明セラレタランニハ、讀者ニ向テ更ラニ一層多大ノ満足ヲ與ヘタルコトナルベシト思惟ス。然レドモ本書ノ主眼トスル所ハ流通經濟ノ時代ニ於ケル經濟行爲ノ特色ハ、貨幣ノ額ニ見積ラレ且之ヲ以テ言現ハシ得ル價值判斷ガ、其ノ基礎デアアルコトヲ述ベラレタル點デアツテ、是レハ近年有力ナル學者間ニ唱道セラルル最近學說ニシテ、著者ノ立場ハ主トシテ此ノ點ニアルラシク思ハレ、本書ノ所々ニ於テ屢々此ノ事ニ言及シアレバ、旁々以テ著者ノ主眼トセラルル所ハ此ノ點ニアリト云フモ怨ラクハ大過ナカルベシト信スルノデアアル、而シテ著者ガ本書ノ何頁デアツタカ「價值の言ひ現はし方を正確にする爲に經濟上では貨幣を借りて居るのであります」ト云ツテ貨幣ハ宛モ幾何學及代數學ナドニ用フル符號ニ過ギザルガ如ク述ベラレタルハ著者自ラ其議論ノ根據ヲ弱メラレタルノ感ナキニアラザルモ、今日ノ社會ニ於ケル人間ノ經濟

行爲ガ多クハ貨幣ヲ以テ言ヒ現ハシタル價值判
斷ニ歸着スルト云ヘル著者ノ根本觀念ハ少クト
モ、大體ニ於テ肯定シ得ラルル學說デアアル、然レ
ドモ此ノ問題ハ重モニ流通ノ部分ニ屬スルコト
デアツテ著者ハ必ス本書ノ坤卷ニ詳論セラルベ
シト想像スルガ故ニ、余ハ後日ニ於テ更ラニ此
ノ點ニ關スル著者ノ高説ヲ拜讀シテ之ヲ批評ス
ルノ機會アラソト切望スルノデアアル

然レトモ茲ニ一步ヲ進メテ之ヲ論スレバ、本書
ノ如キハ其ノ性質上内容ノ或ル部分ヲ切り離シ
テ、此處ハドウデアアル、彼處ハコウデアアルト、斷
句片言ヲ捉ヘテ批評ヲ試ムベキモノニアラズ、
須ラク本書全篇ヲ通讀シテ、其ノ大體ノ價值ヲ
總合的ニ秤量セサル可ラサルノデアアル、乃チ余
ハ此ノ點ニ於テ殊ニ本書ノ特色ヲ認メ近刊書中
ニ傑出シタル好著述デアアルト斷言スルニ躊躇セ
ザルモノデアアル、願フニあだむ、すみすノ富國
論ハ此ノ種類ノ大著述デアツテ、殿正ニ書中ノ
内容ヲ解剖スレバ其ノ缺點ハ此處彼處、更僕ニ
追アラズト雖富國論其物ノ全體ヨリ之ヲ批判ス

レバ恰モ富嶽ノ東海ニ屹立スルガ如ク、巍然ト
シテ群峰ヲ下瞰スルノ概ナキニアラサルコトハ
何人モ疑ハザル所ナルガ、余ヲ以テ之ヲ見レバ
福田氏ノ本書モ亦之ト同シク、其ノ各部分ニ於
ケル切レ切レノ學說ヨリハ寧ロ全書ノ大體ニ於
テ其ノ所長ヲ擅ニスルノ傑作デアアルト云ハザル
可ラズ、學說ノ傍ラニ極メテ豐富ナル歷史上ノ
事實ヲ陳ネ、歷史上ノ事實ノ中ニ現代ノ時事ヲ
評スルナド、讀ミ來リ證ミ去ツテ、頗フル痛快
ヲ覺ヘ、知ラズ識ラズ其ノ所論ノ勢力ニ感化セ
ラルルカ如キハ富國論ノ富國論タル特色ニシテ
其ノ書中ノ記事ノ不統一不徹底ナルニ拘ハラ
ズ、猶我カ經濟書中ノ白眉トシテ仰ガルル所以
デアアル、今福田氏ノ本書ヲ一讀シテ洵ニスみす
ノ富國論ヲ手ニスルノ思ナキニアラズ、乃チ余
ハ本書ヲ以テ近世的ニシテ而カモ通俗的ナル富
國論トシテ茲ニ之ヲ紹介スルコトヲ憚カラザル
ノデアアル

次キニ河上氏ノ貧乏物語ハ福田氏ノ講話トハ、
全ク其ノ立脚點ヲ異ニシテ、後者ヲ貨幣ノ經濟

學トスレバ、前者ハ非貨幣ノ經濟學ト認ムルコトヲ得ベクシテ、兩々相反スルノ學說ナルガ如シト雖、其實ハ必スシモ然ラズシテ福田氏ハ主トシテ現社會ノ經濟的事實ヲ述ベ、河上氏ハ專ラ現社會ニ對スル經濟的希望ヲ說カレタルニ過キサルノデアアル、福田氏ノ講話ヲ讀ンデ、而シテ後ニ河上氏ノ物語ヲ讀メバ、首尾相應シテ龍蛇ノ陣ヲ形成スルモノノ如シ、乃チ講話ヲ評スルト同時ニ物語ノ評ニ及ブハ抑モ亦因縁ナキニアラズト信ス

貧乏物語ハ上中下ノ三篇ニ分チ、上篇ハ「如何に多數の人が貧乏して居る乎」ノ事實ヲ記シ、中篇ハ「何故に多數の人が貧乏して居る乎」ノ原因ヲ明ニシ、下篇ハ「如何にして貧乏を根治し得べき乎」ノ救治策ヲ論シタルモノデアツテ、其ノ用語及引例等ハ福田氏ノ講話ノ如ク、總テ平易ヲ主トシ、專ラ一般普通ノ讀者ニ訴ヘタルモノナレドモ、其ノ論旨ノアル所ハ、千古未決ノ大問題ヲ決セントスル頗ブル大膽ナル企デアアル、著者ハ「此の物語は貧乏人よりは富者に

讀で貰ひ度いのである」ト云ハルモ、余ノ見ル所ニ依レバ、貧乏人ニハ勿論ノコト、假令富者ガ讀ミタリトテ、更ラニ何等ノ效果モナカルベク、寧ロ堂々タル經國家若クハ學者ノ反省ヲ促スベキ大問題デアルト云ハネバナラス、著者ノ文章ハ優美流暢ニシテ、引例亦頗フル趣味ニ富ミ、如何ナル階級ノモノデアツテモ一讀、篇ノ了ヘ易キヲ憾ミトスルノ趣ナキニアラサルモ其實著者ノ論スル所ハ、中々容易ノ問題ニアラズ、眞ニ本書ノ主旨ヲ咀嚼シテ、ソノ眞味ヲ解セントスレバ、多少専門的ノ素養ナカル可ラサルノデアアル、乃チ本書ハ其ノ形甚タ通俗的ノ様デアツテ其ノ實通俗ナラズ、高尚ニシテ而カモ相應ニ六ツカシキ讀ミ物デアアル

夫レハ其レトシテ、今此ニ本書ヲ批評スルニ於テハ、先ツ其ノ要領ヲ摘ンデ全篇ノ主眼トスル所ヲ捉ヘサル可ラザルノデアアル、著者カ上篇(九頁ニ至ル)ニ於テ、今日ノ社會ハ貧乏ト云フ大病ニ犯サレツツアルト云フ事實ヲ、詳細ナル統計ヲ根據トシテ論證セラレタルハ、何人モ否定

シ得ザル所ニシテ、此ノ點ハ著者ノ説明、餘リ
 丁寧ニ過ギルカノ感ナキニアラズ、中篇(一五
 二頁ニ至ル)ハ貧乏ノ根本原因ハ現在ノ私有權
 制度ノ下ニ於ケル分配ノ正シカラサルニ起因ス
 ルガ如ク論スルノガ從來ノ通説ナレドモ、ソレ
 ハ大ナル間違デアツテ、専ラ生産ノ種類ノ不當
 ナルニ起因スルモノナルコトヲ説明シ、生産者
 ガ多大ノ資本ト勞力トヲ費ヤシテ、専ラ富者ノ
 需用ニ應スル奢侈品ノ生産ニ從事スルノ結果、
 貧乏人ノ生活ニ必要ナル食料品ノ供給ヲ浴クス
 ルコト能ハサルニ至ルモノト斷定シ、貧乏ノ原
 因ハ分配ノ不均ヨリハ寧ロ生産ノ不當ニアリ
 ド云フノ説デアル、下篇(二九五頁ニ至ル)ニ
 於テハ之ヲ救治スルノ策トシテ、先ツ三箇ノ條
 件ヲ前定シ、(一)現時の經濟組織にして維持せ
 らるゝ限り(二)又社會に甚たしき貧富の懸隔を
 存する限り(三)而して又富者か其の餘裕あるに
 任せて妄りに各種の奢侈贅澤品を購買し需要す
 る限り」ハ貧乏ヲ根絶スルノ望ミナシトシ、サ
 テ世ノ富者ガ自ラ一切ノ奢侈贅澤ヲ廢止スルナ

ラバ(三)ノ條件ヲ消滅スルガ故ニ、ソレハ髓ニ
 貧乏退治ノ一策ナリトシ、次キニ何等カノ方法
 ニ依テ、貧富ノ懸隔ヲ匡正シ、人ノ所得ヲシテ
 等差ナカラシムルヲ得バ(二)ノ條件ヲ消滅スル
 ガ故ニ、是レ亦貧乏退治ノ一策ナリトシ、最後
 ニハ各種ノ生産事業ヲ私人ノ儲仕事ニ一任セズ
 シテ、國家自ラ之ヲ擔當スルニ至ラバ、是レ則
 チ現時ノ經濟組織ヲ改造スルノデアツテ、結局
 (一)ノ條件ヲ消滅スルモノナレバ、之ニ依ツテ
 以テ貧乏退治ノ目的ヲ達シ得ベシト云フノデア
 ル、而シテ著者ノ主眼トスル所ハ、第一策タル
 富者自ラニ一切ノ奢侈贅澤ヲ廢止セシメントス
 ルニアラズ、又第二策タル貧富ノ懸隔ヲ絶ツノ
 方法ヲ取ラントスルニアラズ、専ラ第三策タル
 經濟組織ノ改造ヲ主張セラルルニ在ツテ存スル
 カ如ク思ハルルモ而カモ此ノ第三策ガ本書ノ目
 指ス根本問題カト云ヘバ、又必スシモ然ラザル
 モノト見ヘ、著者ハ二〇四頁ニ於テ「茲に根本
 問題といふは、所謂經濟組織の改造なるものは、
 之を以て貧乏退治の根本策中の最根本のものト

爲すことを得る乎といふ問題である、而して讀者にして若し此問題を以て今私に迫られるならば、私は直に之に答へて否といふに断然否定セラレテ、組織ヤ制度ガ、イクラ善良デアツテモ、ソレダケノ仕事ヲ負擔スル豪傑ガ出テ來ナケレバ駄目デアルト、明言シテ、所謂根本的ノ救治策ハ、廣キ意味ニ於ケル教育家ノ仕事トシテ、個人ノ改善ヲ主張セラルルノデアツテ、先ツ此ノ一點ガ本書ノ主眼カト認メラルルノデアアル、若シ果シテ然ランニハ第一策モ第二策モ皆人間如何ノ問題デアツテ、個人ノ改善サヘ其ノ功ヲ奏スレバ、富者ヲシテ奢侈贅澤ヲ廢止セシムルコト何カアラン、貧富ノ懸隔ヲ絶チ財産ノ平等ヲ維持スルコト何カアラン、要ハ唯々個人ノ改善ガ教育家ノ仕事若クハ其他何等カノ方法ニ依ツテ之ヲ成功シ得ルヤ否ヤノ問題ニアツテ存スルノデアアル

以上述フル所ニシテ大過ナシトスレバ本書ノ要領ハ甚タ不徹底ニシテ、長キ物語ノ結論ハ遂ニ修身ノ一點ニ歸着スルモノノ如クナルモ、願フ

ニ著者ノ眞意ハ、必スシモ斯クノ如キ平凡ナル道學先生ノ後塵ヲ追ハントスルモノニアラズ、本書ヲ通讀シテ前後ノ文意ヲ推測スレバ、著者ハ別ニ大ニ嶄新ノ理想ヲ懷抱シテ、之ヲ發露スルノ自由ヲ失シ、言フベキヲ言ハズ語ルベキヲ語ラズシテ、故ラニ不徹底ノ説ヲ述ヘラレタルモノノ如シ、今ヤ此ノ種ノ著作ヲ事トスル者ハ往々斯クノ如キ困難ニ遭遇スルコトナキニアラザレバ、讀者ハソノ心シテ著者ノ眞意ヲ明文ノ外ニ求メサル可ラザルノデアアル、現ニ本書ヲ熟讀スレバ上中二篇ノ中ニ於テ大小兩前提ヲ見出スコト洵ニ難シトナサズ、乃チ其ノ結論ノ如キハ讀者自ラ抽出シテ可ナリ

之ヲ要スルニ本書ハ斯學ノ根本思想ヲ眞ノ人生觀ヨリ論斷シタルモノニシテ、ろつじみる以來近世ノ學者ガ屢々唱道スルガ如ク「經濟學ノ目的ハ人間デアアル」ト云ヘルノ本旨ヲ最モ適切ニ説明シタルモノデアアル、英國ニ於テ此ノ説ヲ鼓吹シ「まunchusたあ、すくうる」ノ缺點ヲ摘扶シタル先驅者ハかあらいる及びらすきんナルガ、

就中最モ力ヲ盡クシテ人道的經濟學ヲ主張シタル者ハらすきんデアル、而シテ今試ニ本書ヲ披見スレバ、其ノ論法句調、皆悉クらすきんナラサルハナク、福田氏ノ講話ヲ讀ンデみすナラムノ思アルカ如ク、河上氏ノ物語ヲ見レバ、彷彿トシテらすきんノ警駭ニ接スルノ感ナキニアラズ、余ハ曾テ戲レニ河上氏ヲ呼ンテ今らすきントセリ、君ノ平生ノ言語文章往々らすきんニ酷似スルモノアルガ故デアル、頃日本書ヲ讀過スルニ及ヒ余ハ轉々益々此ノ感ヲ深クセサルヲ得ザルノデアル、然ルニ此ニ一ツノ不思議ナルコトハ、河上氏ハ夙ニ博學洽聞ヲ以テ知ラレタルニ拘ハラズ、此ノ物語ヲ公ニセラレタル最近ノ時マデ、未タ曾テらすきんノ著作ヲ窺ハレタルコトナカリシハ、余ノ明ニ承知スル所デアル、故ニ河上氏ノ學說ハすまると若クハほぶそんナドノ如クらすきん其人ノ說ニ感化セラレタル「らすきにすむ」ニアラズ、彼レトハ全然獨立ニ進ンデ同一ノ道ヲ歩メルモノニ外ナラザルノデアル鴨呼何ソ相似ルノ甚タシキヤ

河上氏既ニ今らすきんタリ福田氏豈ニ今すみすタラザランヤ、眞ノらすきんハ眞ノすみすノ番頭經濟學ヲ痛擊シテ氷炭相容レサルノ勢ヲ示シ今らすきんノ清貧哲學ハ今すみすノ貨幣經濟學ト正サニ反對ノ立場ニ在ツテ、相互ニ牴牾スルノ形ナキニアラザルモ事實斯クノ如クナルハ單ニ外形ノミデアツテ、兩者ノ根本思想ハ、前ニモ述フルカ如ク相反セザルノミナラズ、福田氏カ現代ノ特兆トシテ描カレタル貨幣經濟ハ、河上氏ガ救治ヲ絶叫セラレル前提デアツテ、福田氏自身モ亦其ノ書中ニ於テ現代ノ特兆ガ、即チ其ノ大缺點ヲ生ミ出シタル所以ナルコトヲ明言シテ互ニ根本思想ノ異ナラザルコトヲ證セラレタルハ是レ則チ今すみす今らすきん共ニ近世的學問ノ恩惠ニ浴シツツアルノ賜デアルト云ハネバナラス、眞ノすみすト眞ノらすきントヲシテ今日ニアラシメバ又必ス其意見ニ於テ一致ノ點ノ多カルベキヲ疑ハザルノデアル、二書ヲ評スルノ序、談餘事ニ及ヘリ、二君幸ニ寬恕シ玉ヘ